

チトカニウシ山

北海道

北見峠より

1990年5月4日

メンバー：L岩 毅 岩 淳子

5/4 晴 チトカニウシ山(1445.8m)は、北海道の上川

と北見の国境に立ち、かつてはスキーツアーの山として盛んに登られていたそうで、北大山岳部の祖、伊藤秀五郎氏著「北の山」にも「冬の北見峠」という章で詳述されている。

登路はJR石北線上越駅からと、R333北見峠からの二つがあるが、私達は後者を使った。

予め前日迄に上川営林署に届けを出したうえで4日早朝、旭川を車でお発し北見峠に向かった。旭川から峠までは70km強、1時間で着く。

峠の標高は835mだから標高差600m強のスキーハイキングである。天気予報では昼前から下り坂とのこと。車を峠におき、すぐにお発する。暖冬少雪とはいえ峠にはまだ1m弱の

積雪がある。

峠から1時間ばかり、電波塔までは小刻みなアップダウンのある尾根歩きである。この山は独立峰で北見峠からあおぐその姿は結構登高欲をそそるものがある。電波塔からは、その頂に向かって、タンネの森の中の急登が始まる。標高1200mを超えるとダケカンバにかわるが、これは雪に埋まっており、純白の急斜面となる。北見側は切れ落ちており、以外に高度感がある。

山頂からの眺めは素晴らしい。それは、この山が北海道中央分水嶺上の独立峰であり、また、北見山地においては天塩岳に次ぐ標高があるためである。南に大雪山、北に天塩岳、西に上川盆地、東に北見の大平原と見渡す限りの絶景であった。特に天塩岳は山スキー向きの山容をしており心魅かれるものがある。下りは1200mまでは上川側を巻いて慎重に滑る。そこからはタンネの森の大斜面を思うままに滑った。

(タイム) 北見峠6:35—電波塔7:40, 8:10—チトカニウシ山頂9:55, 10:25—電波塔11:25—北見峠12:20 (岩 毅 記)

